

## 学校完全週5日制参考文献

作成：岡山洋一

### 書籍

寺脇研「ゆとり教育こそ「個性の時代」に求められる人間をつくる」『日本の論点 2001』(文藝春秋、2000年)

丹羽健夫「ゆとり教育による学力低下は必至－大学は入試レベルを維持すべし」『日本の論点 2001』(文藝春秋、2000年)

「「ゆとり教育」是非論の争点を整理するための基礎知識」『日本の論点 2001』(文藝春秋、2000年)

和田秀樹「「ゆとり」教育は愚かな人体実験である。

「つめこみ」こそが子どもを救う」『日本の論点 2002』(文藝春秋、2001年)

尾木直樹「学力低下「危機」論の危険－「つめこみ」有効説はエリートの暴論である」『日本の論点 2002』(文藝春秋、2001年)

「[基礎知識]新学習指導要領の導入は小中学校を変えるのか?」『日本の論点 2002』(文藝春秋、2001年)

荻谷剛彦「家庭環境の差が学力に表れる－新しい学習方針が見落とした決定的事実」『日本の論点 2003』(文藝春秋、2002年)

陰山英男「読み書き計算の反復学習が子どもの「学力」と「生きる力」をつけるわけ」『日本の論点 2003』(文藝春秋、2002年)

「[基礎知識]「学力低下」論争は教育現場をどう変えたか?」『日本の論点 2003』(文藝春秋、2002年)  
データバンク 21編「ゆとり教育」『論争地図』(成美堂出版、2003年)

寺脇研「「ゆとり教育」は最終的に学力向上につながる」『激論!日本人の選択 上』(小学館、2001年)

和田秀樹「「ゆとり教育」は日本の将来を危機にさらす」『激論!日本人の選択 上』(小学館、2001年)

清水一彦他『最新教育データブック[第9版]』(時事通信社、2002年)

小堀桂一郎『「ゆとり教育」が国を滅ぼす』(小学館、2002年)

小松夏樹『ドキュメント ゆとり教育崩壊』(中央公論新社、2002年)

魚田昭次『学校週5日制』(文芸社、2002年)

市川伸一『学力低下論争』(筑摩新書、2002年)

和田秀樹『「ゆとり教育」から子どもをどう守るか』(講談社、2002年)

和田秀樹『「ゆとり教育」から我が子を救う方法』(東京書籍、2002年)

和田秀樹『学力崩壊』(PHP研究所、2003年)

荻谷剛彦『なぜ教育論争は不毛なのか 学力論争を超えて』(中央公論新社、2003年)

中井浩一『論争・学力崩壊2003』(中央公論新社、2003年)

小笠原喜康『議論のウソ』(講談社、2005年)

### 新聞

「小中学校・週5日制 否定派、親の4割 理由トップ『学力低下』／PTA調査」読売新聞 2005年5月18日号

「全国一斉学力テスト 危機感バネに基礎はアップ 文科省が分析」読売新聞 2005年4月23日号

「学校週5日制 3人に1人『休日にすることがない』(解説)」読売新聞 2003年4月26日号

「[[論点] 問題多い新学習指導要領 野間啓(寄稿)」読売新聞 2001年12月13日号

『「ゆとり」の今どき小学生、学力は・・・ 20年前なら4割『遅れ気味』』日本経済新聞 2002年9月23日号

「土曜授業、現場が先行 都立高、来年度は17校」朝日新聞 2004年12月18日号

### 雑誌

「深層リポート 学校週5日制が奪う子供たちの「ゆとり」」『サンデー毎日』2002年3月10日号

- 田丸美寿々・佐藤学・福本元恵「婦人公論井戸端会議 週五日制で学校はどう変わる?」『婦人公論』**2002年5月7日号**
- 「資料 文部科学省「完全学校週五日制の実施について」(通知)」『教職研修』**2002年5月号**
- 金井肇「学校週5日制と道徳教育」『教職研修』**2002年8月号**
- 新井郁男「学力低下は「ゆとり教育」が招いたのか」『教職研修』**2005年4月号**
- 天野正輝「学力の二極分化の拡大は阻止できるか」『教職研修』**2005年4月号**
- 森邦昭「学ぶ意欲の低下を食い止めることはできるのか」『教職研修』**2005年4月号**
- 中村敦雄「読解力」の低下はなぜ生じたか」『教職研修』**2005年4月号**
- 菊池健夫「理数離れに歯止めはかけられるのか」『教職研修』**2005年4月号**
- 村川雅弘「総合的な学習の時間」では学力は育たないのか」『教職研修』**2005年4月号**
- 木原俊行「学習指導要領の全面改訂は急がなければならないのか」『教職研修』**2005年4月号**
- 寺崎千秋「学校週五日制は堅持すべきなのか」『教職研修』**2005年4月号**
- 「調査 2 中学校の新年度実施予定は 4 割--文科省の「私立学校における学校週5日制の実施状況」調査」『内外教育』**2002年3月8日、5278号**
- 「ラウンジ 学校週五日制通知」『内外教育』**2002年4月19日、5289号**
- 「調査 9 割の自治体が土曜日に体験活動--完全学校週5日制の実施に伴う事業の実施等調査」『内外教育』**2002年10月29日、5338号**
- 「7割の子供が5日制を歓迎 「することがない」も3~4割--文科省の完全学校週5日制意識調査」『内外教育』**2003年4月22日、5382号**
- 「ラウンジ 雲行き怪しい週5日制」『内外教育』**2005年1月14日、5534号**
- 児島邦宏「学校週5日制、指導内容の厳選をどう生かし、何をめざすのか」『総合教育技術』**2002年1月号**
- 市川伸一「総合的な学習の充実と基礎基本の徹底の両立をどう図るのか」『総合教育技術』**2002年1月号**
- 立中幸江「評価観の転換を新しい学習にどう結びつけるか」『総合教育技術』**2002年1月号**
- 帯津嘉二・永井雅人・嶋崎史隆「小学校編「月〜金で授業の準備は終わらない! 長期休暇の有効」
- 児島邦宏「新学習指導要領完全実施/学校教育の基礎基本、授業の原点をあらためて確認する」『総合教育技術』**2002年4月号**
- 天笠茂「学校週5日制完全実施の不安を乗り越える」『総合教育技術』**2002年4月号**
- 天笠茂・斎藤等・横山達也「基本的な発想の転換と新たな学習組織の模索」『総合教育技術』**2002年4月号**
- 北城恪太郎「これからの日本社会が求める人材は?」『総合教育技術』**2002年4月号**
- 帯津嘉二・永井雅人・嶋崎史隆「小学校編「月〜金で授業の準備は終わらない! 長期休暇の有効活用がカギ」完全学校週5日制の課題と改善点」『総合教育技術』**2003年3月号**
- 門松裕之・宇佐見和則・鈴木保宏「中学校編「毎日が多忙! 出勤してから放課後まで空き時間なし!」完全学校週5日制の課題と改善点」『総合教育技術』**2003年3月号**
- 「文部科学省委託調査 「完全学校週5日制の下での地域の教育力の充実に向けた実態・意識調査」報告」『総合教育技術』**2003年6月号**
- 蛭田政弘「学校や家ではできない体験をもっと…」子どもの願いをどう実現するか」『総合教育技術』**2003年6月号**
- 荻谷剛彦「学校週5日制完全実施後の「教員勤務実態」調査報告」『総合教育技術』**2004年6月号**

- 荻谷剛彦「教育改革下の教員たち:その勤務実態と意識」を概観する『総合教育技術』2004年6月号
- 荻谷剛彦・田中信夫・中村俊臣他「特別座談会 文部科学省は実際に、学校現場にアンケート調査を行って教育改革を進めているのだろうか」と疑問を持ちます『総合教育技術』2004年6月号
- 矢内忠「特有の学校文化ができ上がっている「夏休み」。それに対して違和感や閉塞感を覚える教師たち」『総合教育技術』2004年7月号
- 高橋英臣「校長裁量が認められない場合でも、長期休業を「会議・研修」「総合・課題学習」に活用」『総合教育技術』2004年7月号
- 辻村哲夫「学習指導要領の考え方、5日制の理念などについて、文部科学省は広く社会に対し、粘り強く真意を伝えてほしかった」『総合教育技術』2004年8月号
- 荻谷剛彦「行政の「方針の一貫性の欠如」や「教育現場の声を無視」が教師の教育改革の取り組みにブレーキをかけ」『総合教育技術』2004年8月号
- 矢倉久泰「平成教育改革」の16年間を変遷年表とキーワードで掴む『総合教育技術』2004年8月号
- 木室忠明・日野宏・関勇豪・遠山信二「座談会 改革によって、教員はカリキュラムユーザーからメーカーへと変わり、教育専門家としてのプライドを取り戻す、よい機会になる」『総合教育技術』2004年8月号
- 柳田尚也「大人も楽しもう「週5日制」」『肢体不自由教育』2003年5月号
- 三浦和「学校週5日制導入の経過と今後の課題」『肢体不自由教育』2003年5月号
- 若野昇「肢体不自由養護学校における完全学校週5日制の現状と課題」『肢体不自由教育』2003年5月号
- 蓮見音彦「完全学校週5日制がめざすもの」『初等教育資料』2001年8月号
- 新井郁男「完全学校週5日制と子供の学びの広がり」『初等教育資料』2001年8月号
- 押谷由夫「完全学校週5日制と学校教育の改善」『初等教育資料』2001年8月号
- 上杉賢士・堀内貞夫・高木敬子他「座談会 完全学校週5日制によって、子供の教育がどう変わるのか」『初等教育資料』2001年8月号
- 吉武弘喜「学校週5日制の考え方を生かす教育課程」『初等教育資料』2003年1月号
- 清水一豊「学校週5日制を積極的に生かす指導計画」『初等教育資料』2003年1月号
- 平野吉直・小野沢禎子・熊本清孝他「座談会 学校週5日制を生かした教育課程の工夫と改善」『初等教育資料』2003年1月号
- 教育課程課生涯学習推進課「完全学校週5日制の趣旨について」『教育委員会月報』2002年2月号
- 森隆夫「学校週5日制と学校、家庭、地域の連携」『教育委員会月報』2002年2月号
- 文部科学省初等中等教育局教育課程課「完全学校週5日制の下での新しい学習指導要領のねらいの実現に向けて」『教育委員会月報』2002年2月号
- 寺脇研「教育改革がもたらす新しい学び--学力低下への懸念を払拭する」『季刊教育法』2002年6月、133号
- 船寄俊雄「ゆとり教育と学級編成--「学校知識」時代の終焉」『季刊教育法』2002年6月、133号
- 田中統治「ゆとり教育とカリキュラム--政策評価システムの構築」『季刊教育法』2002年6月、133号
- 世取山洋介「アメリカにおける新自由主義教育改革と教師の地位」『季刊教育法』2002年6月、133号

- 坂田仰「「出席停止命令」とその運用課題」『季刊教育法』2002年6月、133号
- 「特集 完全学校週五日制における学校教育の在り方」『中等教育資料』2002年1月号
- 二宮皓「学校週五日制の意義と新教育課程」『中等教育資料』2002年1月号
- 文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課「完全学校週五日制の下での地域の教育力の充実に向けた実態・意識調査結果について」『文部科学時報』2003年7月号
- 汐見稔幸「完全週休二日制時代の家庭の役割」『児童心理』2002年8月号
- 加藤明「学校は親の不安と期待にどうこたえるか」『児童心理』2002年8月号
- 小木美代子「公立学校の完全学校週五日制をどうとらえ、どう活用するか」『月刊社会教育』2002年6月号
- 佐藤学「「ゆとり教育」では何も解決しない」『潮』2002年4月号
- 宮崎哲弥「文部科学省四面楚歌の「ゆとり教育」」『中央公論』2002年5月
- 斎藤貴男・宮崎哲弥「ゆとり教育は「理想」か「平等破壊」か」『中央公論』2002年6月
- 「子ども、学校、地域の週末はどう変わるのか」『学校経営』2002年4月号
- 武笠和夫「土曜授業、予備校との連携、私立学校の動向 「完全学校週五日制」をめぐる全国的な動き」『学校経営』2002年4月号
- 堀井啓幸「提言 学校、家庭、地域が果たすべき役割とは--学校週五日制の教育責任を改めて問う」『学校経営』2002年4月号
- 三上欣也「親として、地域社会の一員として、充実した日々の過ごし方を子どもにどう教えるか」『学校経営』2002年4月号
- 「「地域に開かれた学校」への確かなる助走 一魚津市「学校週五日制」一二年間の取り組み」『学校経営』2002年4月号
- 「地域の活動が学校を変える 一東京都中野区ZERO キッズの取り組み」『学校経営』2002年4月号
- 徳武靖「学校週五日制と週休二日制」『学校経営』2004年1月号
- 山口榮一「学習内容はこれだけ変わる」『論座』2001年1月号
- 荻谷剛彦「日本は階層社会になる」『論座』2001年1月号
- 大森不二男「「上限規制」の撤廃こそ、学力向上の起爆剤だ」『論座』2001年1月号
- 下谷昌久「「学力低下」がモノづくりの基盤を崩す」『論座』2001年1月号
- 高橋幹夫「ゆとり教育は子どもたちから自尊感情を奪った」『論座』2001年1月号
- 吉川弘之「学習への「動機」をいかに子どもに与えるか」『論座』2001年1月号
- 寺脇研「ミスター文部省 寺脇研が疑問・批判に答える」『論座』2001年1月号
- 中島哲彦「新指導要領で可能になる教育課程の自主編成」『論座』2002年5月号
- 小佐野正樹「「学習内容削減」がもたらす知識の断片化」『論座』2002年5月号
- 森上展安「「ゆとり教育」が中学受験の「過熱」を招く皮肉」『論座』2002年5月号
- 若月秀夫「土曜補習をする前にやるべきこと」『論座』2002年5月号
- 陰山英男「文科省は授業数を計算し直せ」『論座』2002年5月号
- 上野健爾・黒木哲徳・牧田秀昭「教師の力量を高めるチャンスにしよう」『論座』2002年8月号
- 有馬朗人「小学校の「総合」の時間は多すぎる」『論座』2002年8月号